

# D-INTERNSHIP

龍の仕事展を活用した人材育成プログラム



## D-INTERNSHIP



2014

**吉備再発見**  
Discovery KIBI

太古から数知れぬ人々が  
この流れによつて生き  
またこの流れによつて生きた人々によつて  
守られ、利用され  
郷土の文化を生み、産業を育て  
歴史の流れと共に人々の生命の糧となり  
魂の故郷となつた  
大原健一郎「高梁川」(茨城新聞社)より

The collage includes several rows of small photos of diverse interns. A central, larger photo shows a wide river flowing through a lush green valley with hills in the background. Below this, a grid of small images displays various local products such as colorful bags, food items, and traditional crafts.

## 龍の仕事展とは

龍の仕事展とは、毎年9月に倉敷アイビースクエア内のアイビー学館を会場として高梁川流域のものづくり企業、約30社が企業文化の展示を行い、商品のPRや販売を行うものです。2010年の国民文化祭から毎年開催され、今年で5回目を迎えます。

開催時期はシルバーウィークと呼ばれる秋の行楽シーズンで、県内で最も観光客を集める倉敷美観地区へも全国から大勢の観光客が訪れます。昨年までの実績で龍の仕事展は8000人を超えるお客様を迎えています。

出展する企業は、創業100年以上の歴史を持つ各地域を代表する老舗企業から、新たに地域ブランドを立ち上げ、次世代へと受け継げるものを生み出す努力を続ける企業たちです。



## 龍とは

「龍」とは高梁川のことで、地域名を持つ川の名称ではなく、流域にあまたの恵みを与えた母なる川として、このイベントではこの川を龍と呼んでいます。また、高梁川は古代「吉備のくに」の中核として多くの文化を生み出し、多くの地域をつなげました。

私たちは、この母なる川を「龍」というひとつのシビックプライドとして掲げ、広く同じ水で生かされている備中エリアの人々がつながり、協力しあうことを目指しています。私たちが「龍の末裔」として、この地を愛し、さらに豊かにしていきたいと願うことが、この流域に暮らす人達が生涯に渡って誇り高く、心豊かな生活を営むために必要な生活具を残し、伝え、また新たに企画開発していくことに結びつき、そして固有のライフスタイルを実現していくことを目指したコンセプトなのです。母なる川の恵みを受け、この地で「もの」を生み出すことを「なりわい」とする「龍の末裔」の仕事を集めた展示が「龍の仕事展」なのです。



## 企業文化に焦点をあてた地域文化の展示とは

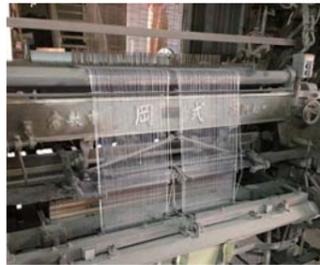
ものづくりに関わる企業は、その発生・発展・開発商品が地域特有の気候・風土・歴史・文化に大きく影響を受けて派生しています。すなわち、土着企業の生き残るための工夫こそが、地域と密接に結びつく固有文化を形成するものなのです。

そしてこれは、資本も人材も弱い地方のブランドが、都市部と戦略的に差別化できる重要な切り口であり、地方にこそ都市のブランドが切り捨ててきた歴史・文化が強く残っている強みを再認識すべきなのです。今後、海外市場に対しても、日本が次に輸出すべき商品に「文化」＝クールジャパンが期待されています。

企業文化の展示とは、商品を売らんが為の展示・即売ではなく、しっかりと企業文化に焦点を当てた展示を行います。企業自体も自らの足元を掘り下げることで、見落としていた自社の付加価値を見直し、製品から地域ブランドといった商品を生み出す切欠にもなります。

更に、全国から大勢の観光客が訪れる倉敷美観地区の中核的施設である倉敷アイビースクエアを会場として地域企業の展示・商品の販売を行うということは、地域のファンが集まる場所で地域ブランドをPRできる強みに加え、全国各地の人々に対し、たとえば新商品のテストマーケティングを行うことも可能で、十分にコンベンション機能を有しています。

加えて、来訪者並びに地域住民へは地域の文化を広く学ぶことのできる機会と場の創出として、学習観光、企業の認知による就業機会の促進へもつながる可能性を持つものです。



## 龍の仕事展を活用した人材育成プログラムとは

多くの企業が地域戦略を持つとともに、地域と連携してその社会的存在意義を実現しています。つまり、地域を知ることは、どのような仕事に就いても求められるスキルでもあります。また、社会人として、自らが暮らす地域、自らが営みをおくる地域を理解することは、多くの社会人が生涯を渡って取り組む一つのテーマでもあります。

先に述べたように、企業文化を知ることで地域特有の気候・風土・歴史・文化までに関連づけて理解することができます。また、地域を深く掘り下げて知ることによって、新たなビジネスチャンスも生まれます。低迷する地方経済は、既に存在する様々な価値を結びつけ直し、再構築することで小さな経済を数多く回すという活性化手法も地方の生き残り戦略として重要です。

その様な視点を持つ地方人を育てる人材育成プログラムとして、企業文化に焦点をあてた地域文化の展示「龍の仕事展」を地域の大学と連携し活用していきます。



## The Merit of D-INTERNSHIP

### 大学・学生に向けて

社会とは何か？ 地域とは？ 組織とは？ 集団とは？ 会社とは？ 他者とのつながりや関係性を知り、それを通して自分を知る、それが社会を知ることです。社会人への入り口は自己啓発の始まりからです。

皆さんの意識が高ければアルバイトでも十分に社会性を身につけることは可能ですが、アルバイト活動の中に社会人教育などのスキルアップを求めた場合、職場環境や巡り合える周囲の人々に大きく左右されます。

それに対し、インターンシップは基本的に大学生を対象とし、第一に人材育成を目的としたものなので、環境や人に左右されず、プログラムを受ける機会が与えられます。自己啓発型から段階に応じて、課題解決型、専門性を試せる技術活用型などのプログラムがあります。

大学生がインターンシップに参加する目的としては、以下のものがあります。

- 「社会人として「働く」ということはどのようなことなのかを知る」
- 「社会経験を通じて自分に足りない能力を見つける」
- 「自分がどのような職業や業種に向いているのかを見極める」
- 「ビジネスマナーを身につける」
- 「今後の学生生活の目標を明確にする」
- 「大学での勉強と実社会との関連性を見つける」
- 「大学での専攻分野に関連する業界の実情を知る」
- 「就職希望である業種の実情を知る」
- 「卒論・修論のテーマを見つける」

就職すれば一人前の社会人になれる訳ではありません。先輩たちは社会人になってからも日々、努力、勉強をして皆スキルアップをしています。理想はインターンシップなどの社会経験を活かして、大学で専門性を磨く4年間を過ごせるかどうかなのでしょう。そういった意味では就職を目前に参加するのは遅いのです。また、インターンシップに参加することはもちろんですが、経験を参加後の将来設計やキャリア設計に、いかに反映できたかが問われます。自己教育力、これは社会人に求められる重要な素養でもあるのです。



## The Merit of D-INTERNSHIP

### 企業に向けて

大学では学びにくい社会人基礎力を、学外に出て身につけるフィールド系教育としてインターンシップの有効性は広く認められています。一時期は大学生の就業力支援の活動としてとらえられていました。しかし、現在、インターンシップは人材育成事業として定義され、社会全体で取り組む課題として企業にもその協力が強く求められています。

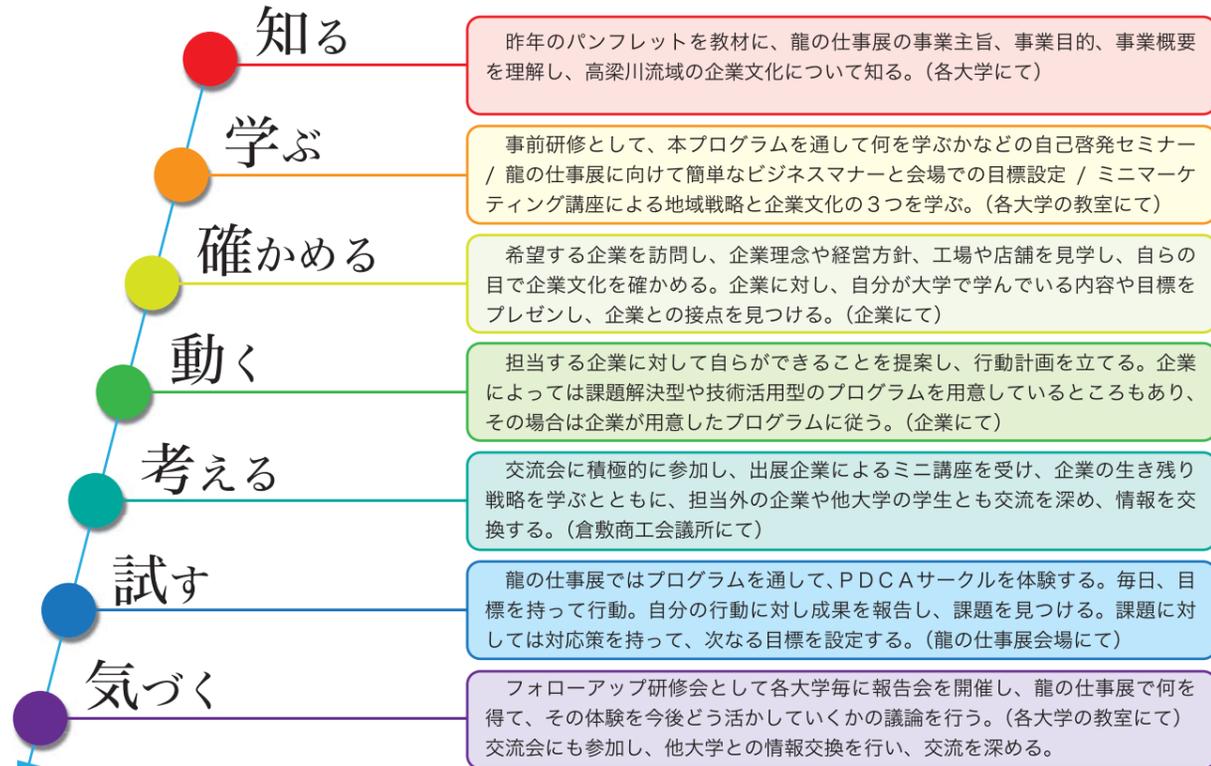
インターンシップを受け入れることによるメリットとしては、以下のものがあります。

- 「学生の受け入れは、企業の社会貢献に役立っている」
- 「企業のPR活動につながっている」
- 「受け入れた部門や担当者の活性化に役立っている」
- 「大学とのパイプ作りの強化につながっている」
- 「学生の参加が補助労働力となっている」
- 「学生の意見や提案等が新しいビジネスチャンスにつながっている」
- 「結果的に優秀な学生の採用につながっている」

多くの受け入れ先は社会貢献を上げますが、ゆくゆくは若い世代が市場を作っていくことを考えれば、大学生は重要な将来の顧客と考えられます。企業を理解してもらいファンになってもらうことは大切な戦略です。また、インターンシップに熱心に取り組んでいる企業の話に出てくるのは3番目の「受け入れた部門や担当者の活性化に役立っている」で、受け入れ担当者・担当部署が初心に帰り活性化したという例がほとんどです。若者の価値観や商品の捉え方、問題への解決方法に刺激を受けたと言われます。積極的にインターンシップを活用することで、企業は新卒を雇うリスクを負わずに、組織を活性化したり、新たな時代の流れをつかむことができる可能性を秘めているとも言えます。就活の面接だけでは掴めない評価も可能で、大手企業に見つけれない優秀な人材を発掘することができる可能性もあります。



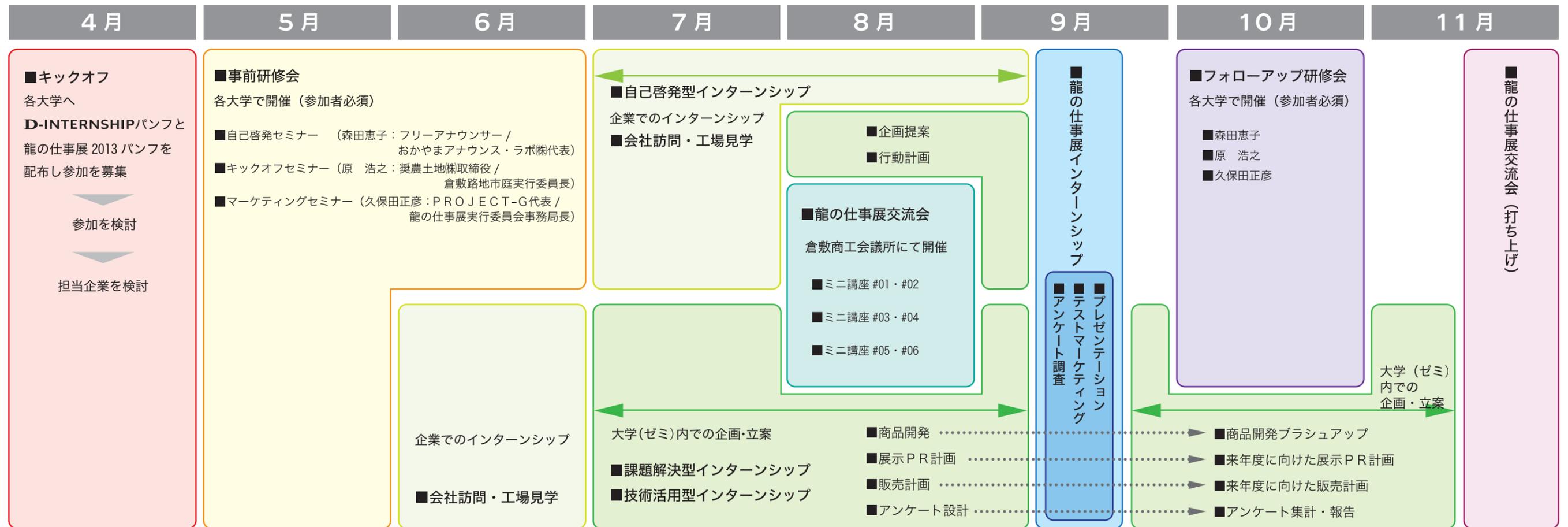
# The Seven Points of D-INTERNSHIP



## 龍の仕事展 2013 参加企業

- 倉敷地区  
カモ井加工紙(株) [m t] / 倉敷木材(株) [暮らしらぼ] / (株)丸五 [地下足袋・ASSA BOOTS] / とら醤油(株) [黄ニラ醤油] / 宍平翠軒 [おいしいものプティック] / 大橋家住宅 [秘蔵フィルム] / 手づくり家具のひらやま [倉敷民藝家具] / 今吉商店 [倉敷いぐさ] / (株)タケヤリ [帆布製品] / (株)パイストーン [倉敷帆布] / 倉敷着物小町 [デニム着物]
- 玉島地区  
(株)北原産業 [食品容器]
- 児島地区  
ナイカイ塩業(株) [塩] / 国指定重要文化財 旧野崎家住宅・岡山県指定史跡 野崎家旧宅 / 高田織物(株) [畳縁] / 松井織物(株) [畳縁] / 宍三好染工場 [染色・プリント] / 児島ジーンズストリート [桃太郎ジーンズ / DANIA JAPAN / SA10 / Denim Closet from KURASHIKI / JEANZOO]
- 笠岡・鴨方地区  
(株)石田製帽 [麦わら帽子] / (株)襟立製帽所 [オリジナル帽子]
- 総社・矢掛地区  
アキテックラボ(株) [パイプ枕原料・食品容器] / 宍まるみ麴本店 [味噌・甘酒・麴] / ヨイキゲン(株) [酒・薄荷焼酎]
- 高梁地区  
高梁商工会議所 [備中夢大納言 (備中開発(株) / つちや天任堂 / パティスリー・シャロン)]
- 新見地区  
新見観光協会 [果実工房クニファーム / 宍いでみず園のお茶 / (株)新見庄あしだち本店 / (株)哲多すずらん食品加工 / 三輪刃物工場 / (株)アクティブ哲西 / 金棒すし本舗 寿司一 / 創山林業(株) / カツマル醤油醸造(株)]
- 備中地区  
備中県民局 [備中エリア特産品セレクション (レッドライスカンパニー(株) / 福田すみれ会 / 池田根っこの会 / 総社婦人大学 / 方谷の里農産加工部 / プリガーデン)] / 一般社団法人水辺のユニオン  
CREATIVE COLLABORATION 「倉式」 Movement type-KURA

## Time Schedule



学生ボランティア募集情報シート

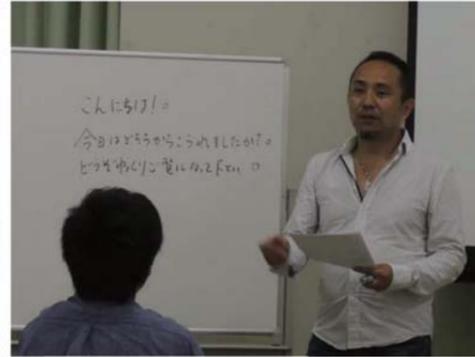
ふりがな りゅうのしごとてんじっこういんかい	記入日
団体名 龍の仕事展実行委員会	平成 26 年 4 月 10 日
龍の仕事展実行委員会： 倉敷商工会議所 / 玉島商工会議所 / 児島商工会議所 / 笠岡商工会議所 / 井原商工会議所 / 高梁商工会議所 / 総社商工会議所 / 新見商工会議所 つくば商工会 / 総社吉備路商工会 / 真備船穂商工会 / 浅口商工会 / 備北商工会 / 備中西商工会 / 阿哲商工会 倉敷芸術科学大学 / くらしき作陽大学 / 吉備国際大学 / 岡山県立大学 / 倉敷市立短期大学 / 川崎医療福祉大学 岡山県備中県民局 / 倉敷アイビースクエア / DESIGN STUDIO PROJECT-G	
所在地 〒710-0052	岡山県倉敷市美和 2-10-18 蔵 2F DESIGN STUDIO PROJECT-G 内
TEL 090-7502-6177	E-mail botta@project-g7.com
FAX 086-431-0781	HP http://wunion.exblog.jp/
担当部署名	担当者
龍の仕事展実行委員会 事務局長	久保田 正彦

1	プログラムの名称	「龍の仕事展」2014
2	活動日・活動時間	① 事前研修会 2014年5~6月 各大学にて 参加者は必ず事前研修会を受けていただきます。 <b>(必須)</b> ■自己啓発セミナー ■キックオフセミナー ■マーケティングセミナー  ② ブラッシュアップ交流会 (ミニ講座) 8/6(水) 17:00-19:00 倉敷商工会議所 3階会議室 8/20(水) 17:00-19:00 倉敷商工会議所 3階会議室 8/27(水) 17:00-19:00 倉敷商工会議所 3階会議室 実行委員や出展企業・団体、ボランティア・スタッフが参加するミニ講座・交流会へ出席、交流をしていただきます。 <b>(必須)</b>  ③ 企業インターンシップへの参加 イベント開催前に担当する企業を訪問し、企業理念、経営方針、企業文化、展示ブースでの役割を学び、企業が用意するプログラム研修を受け、9月のイベントに参加していただきます。 <b>(必須)</b> 期間は早ければ6月から、主に7月8月中。受入先によって時期が異なります(出来る限り調整を行います) 受入期間も受入先によって異なります。  ④ 9/13(土)-9/21(日)9:00-17:00 (8:30-18:00) 「龍の仕事展」2014 開催 開催期間中、担当する企業ブースの紹介・PR・販売・アンケート調査などをしていただきます。 毎朝8:30からミーティングが、毎夕17:00から反省会があります。 <b>※展示9日間の内、必ず6日間以上、会場で活動できる方。</b>

3	目的・目標 (ボランティアが関わる活動自体の目的・目標)	出展企業の企業文化を理解し、会場で企業のPR、販売、アンケート調査などを行う。可能であれば、出展企業の展示企画にも積極的に参加し、提案、設営、運営などを行う。
	(団体がボランティア受け入れを行う目的・目標)	地域の大学生が、高梁川流域の企業文化を理解し、地域企業への広い視野を持ち、社会との接点をもつことで自己啓発力・自己教育力を高める。
4	活動内容・活動対象 (ボランティアが行う事)	接客・企業ブースの紹介・PR・商品の販売・アンケート調査
5	活動場所	倉敷アイビースクエア・アイビー学館
6	募集人数	40名~60名
		募集締切日 一次募集：平成26年 4月 30日 二次募集：平成26年 5月 31日
7	期待されるボランティア像	① 積極的に実社会での様々な経験を求め、社会人としての自己啓発力・自己教育力の向上を目指す。 ② 地域の気候風土、文化、歴史に興味がある。 ③ 地元企業に関心が高い。 ④ 誠意ある接客ができる。 ⑤ イベントの企画・運営に関心がある。
8	ボランティアが得られるメリット	地域の気候・風土・歴史・企業文化を学ぶことができる。 地域ブランドの考え方を学ぶことができる。 地元企業を広く知ること将来の目標を持つことができる。
9	交通費の支給 (あり/なし)	9/13(土)-9/21(日)の期間の交通費として 1日あたり <b>一律2000円を支給</b> 。
10	必要な費用 (団体負担/ボランティア自己負担)	昼食(基本的にはボランティア自己負担・優遇従食あり) 会場での飲み物は支給。
11	責任体制	各大学が用意するボランティア保険・インターンシップ保険に <b>参加者負担で必ず加入</b> して参加ください。
12	服装・準備品・その他	① 会場は季節柄、暑いので軽装でOKです。(着替えなどがあったほうがよいでしょう) ② 会場の床は石ですのでつまずきにくい靴が望ましいです。 ③ 名刺交換の場が多数あります。各自名刺をご用意ください。 ④ 毎日、出勤簿へ捺印してもらいます。 <b>毎日、印鑑をご用意ください。</b> ⑤ 簡単な作業日報を毎日書いてもらいます。 ⑥ 終了後に全体を振り返ってアンケートとレポートを提出していただきます。 ⑦ 急なことで欠勤・遅刻する場合は必ず久保田まで連絡ください。 ⑧ 各担当ブースで必要と思われるものは各自の判断でご用意ください。判断できないものは久保田に相談してください。 ⑨ 会場でトラブルが起きた場合、久保田・原へすぐに報告してください。 ⑩ 万一来場、申し込み用紙へ血液型の記入をお願いします。 ⑪ スタッフ用のシャツを検討中です。 申し込み用紙のサイズのところへ記入ください。

事前研修会 2013

2013年8月16日(金)14:00~16:00、倉敷商工会議所・第1会議室にて、学生ボランティア事前研修会が開催されました。研修会は2部構成で、第1部は龍の仕事展 2012 パンフレットと「高梁川グラフィティ」広域観光パンフレットの2冊をテキストとして、「龍の仕事展とは」と題して事業目的と企画コンセプト、高梁川の概要と企業文化とはについて PROJECT-Gの久保田が解説、第2部は一般ボランティア・スタッフとして参加してくれている奨農土地株の取締役である原氏が「龍の仕事展」に向けて〜キックオフセミナー〜と題して①「龍の仕事展」での役割、②「龍の仕事展」で得られること、③社会人としての心構え〜自分自身の仕事や行動に責任をもつこと〜、④社会人5原則、⑤ビジネスマナー・ワンポイントレッスンの研修を行い、最後に学生たちに、「龍の仕事展」での各自の目標を設定してもらい、自己紹介を含めた簡単なプレゼンテーションを行いました。



ブラッシュアップ交流会#01 2013

2013年8月16日(金)17:00~19:00、同会場にて、第1回ブラッシュアップ交流会が開催されました。交流会は2部構成で、第1部は龍の仕事展参加企業から異業種の取り組みに学ぶことを目的として、ミニ講座を開催。参加企業、参加学生、また今回から一般の方々も参加できるようにし、地域企業が広く交流を持てることを目指しました。第2部は、龍の仕事展の運営をスムーズに行うことを目的とし、参加企業間の情報交換やコラボレーションの企画、参加企業と参加学生の事前交流を図りました。

■ミニ講座#01 桃太郎ジーンズ(真鍋社長)「クールジャパンの取り組み」

平成25年5月17日、安倍首相の「成長戦略第2弾スピーチ」第7章「クールジャパン戦略」の中で、きやりーばみゅばみゅと並んで紹介された「岡山の桃太郎ジーンズの海外売上の倍増」。桃太郎ジーンズの海外戦略について真鍋社長から話を聞いた。

まずは、真鍋氏の起業の話。漁師の息子が公務員から繊維企業の社長として起業する話を聞く。児島でファッション業界の仕事をした時、「日本より世界が近道だと思った」。そして、世界という市場を描いた時に、自らの足元「日本文化」を再度勉強しなければならないと思い、東京の神保町の本町で情報を集めた、「洋書(外国人が見た日本を知るため)、古本(日本の文化を学びなおすために伝統工芸品)」を収集し、桃太郎ジーンズのコンセプト、商品づくりの基礎ができあがる。

世界へ出て行くためには自らの販路を持つことが必要と考え、世界中をローリング営業して周り、3年間で25ヶ国150店舗の販路を開拓。こまやかなコミュニケーションが日本の売りでもある。これは営業にも、商品づくりにも欠かせない。

「クールジャパン」、正に世界は日本を評価してくれている。ただし、残念なことに世界を市場としたブランド戦略が日本は下手。



■ミニ講座#02 (株)丸五(小田・波止)「フランスでの販路開拓」

フランスのデザイナーと共同で海外ブランド「ASSA BOOTS」を立ち上げ、フランスへの地下足袋の販路開拓で成功している(株)丸五。フランスでの販路開拓について小田氏から話を聞いた。

まずは、(株)丸五の会社概要と取扱商品の話を知る。地下足袋から新商品開発としてサンダルやスポーツシューズに取り組んできた。ASSA BOOTSのブランド戦略はプロモーションPVにて紹介。現在、フランスだけでなく、フランスを軸にヨーロッパEUに40店舗の販路(セレクトショップや靴屋など)を持つ。特に東ヨーロッパへの需要が伸びている。また、ロシアでのルームシューズとしての需要が急上昇。ロシアは意外に親日である。桃太郎ジーンズやカモ井のmtなどと同様に海外の販路を広げているが、内情は大変で、とてもしんどい。しかし、海外への販路を持ったことで国内の販売が伸びた。

現在、海外生産を一部、国内生産へ。これも販路が海外であると中国製というわけには行かなくなるため。



## ブラシュアップ交流会#02 2013

2013年8月21日(水)17:00~19:00、倉敷商工会議所・第1会議室にて、第2回ブラシュアップ交流会が開催されました。ミニ講座の後、名刺交換会、交流会を行いました。

## ■ミニ講座#03 高田織物(株) (常務取締役 高田氏)「畳業界の動向」

畳縁シェア日本一の企業、高田織物(株)。高田織物(株)の常務取締役である高田氏に日本の畳業界の動向と会社の生き残り戦略について話を聞いた。

明治の末、福井県で生まれた畳縁。最盛期は1日に3万畳の畳の消費があった。畳は年に3回需要の波があり、1期は3~4月(最も1年の内需要が多い:年度代わり、お彼岸)、2期はお盆(人が集まる前にリフォーム)、3期は秋口(お彼岸)と日本の風習とも密接に関わっている。1970年に全国(岡山・福井・静岡・富山に集中)で約100社の畳縁会社があり、内、岡山に半分以上の58社があった。2013年には約20社に激減。競合が減る中で、高田織物(株)は全体の市場の縮小率ほど落ちてはいない。

現在、高田織物では1千種の畳縁を持つ。

市場縮小の要因は、①洋風建築・洋風ライフスタイルへの移行、②畳交換の期間の延長、③生産者の後継者不足、④業界の商習慣が挙げられる。

高田織物(株)では、一般の工場見学を受け入れており、希望者が増えている。高田織物(株)が積極的に工場見学を受け入れる理由は次の戦略に基づく、①市場は自ら作る、②メーカー毎の特色を出し強化する、③畳縁を魅力的なものに仕掛ける、④畳業界以外との接点から活路を発見する。



## ■ミニ講座#04 今吉商店(5代目今吉)「倉敷いぐさの保存と商品開発」

昭和45年頃、全国のい草のほとんどが倉敷を中心とした備中南部で生産されていたが、今では倉敷でい草を生産する農家は1軒となってしまった。上質な倉敷産い草の火を消さぬ様にと、農家を助け、一緒に植え付けや刈り取りを行い、倉敷産のい草商品を生産している今吉商店。農家の作業を手伝う5代目からその話を聞いた。

初代今吉忠蔵が明治30年創業。2代目はい草商品の郵便局通販に取り組んで家業を発展させた。3代目は観光地の立地を活かしてお土産物としての販売に注力。4代目は倉敷産のい草商品を製造するのは1軒となっても、倉敷産「倉敷い草」にこだわってきた。5代目は農家を支え、家業を継ぐ。

西阿知のい草業界は西阿知の人、岡氏がい草の織機(岡式織機)を開発したので、技術の伝承が可能だった。手織りの織機に動力を持ち込んだ岡式織機はシンプルだけど強い。まだその全てを受け継いでないが、多くの人が助けてくれる。

い草の生産はしんどいが、冬場に苗を植え、連休明けに先刈りをする。先刈りしたものが2ヶ月くらいで150cmまで伸びる。その生命力を感じられるのが喜びである。また生産に関わることで、い草商品製造時に材料の知識が役立つ。現在、倉敷では1反しか生産しておらず、1反で300貫(1,125kg(1貫=3.75kg))、300畳分の生産が限界。このことから、倉敷い草は、小ロット、高付加価値の商品開発しか生き残る道は無い。



## ブラシュアップ交流会#03 2013

2013年8月28日(水)17:00~19:00、倉敷商工会議所・第1会議室にて、第3回ブラシュアップ交流会が開催されました。ミニ講座の後、名刺交換会、交流会を行いました。

## ■ミニ講座#05 (株)北原産業(猪原)「企業文化と商品戦略」

キーワードは「綿花繊維のまち」と「水島コンビナートによる石油化学製品」。天然素材を「織る」や「編む」ための機械技術が、プラスチックという素材を、熱したり、伸ばしたり、型枠で成型したりする機械を生み、安価で便利なプラスチック容器を生み出す産業がこの地(備南~備後地区)に生まれた。(株)北原産業が生まれてきた経緯とその商品力について猪原氏から話を聞いた。

昭和42年、先代社長は、P.P(ポリプロピレン)ごさの端切れに眼をつけこれを捨てるのではなくリサイクルすることで起業。誠実な経営理念にオイルショックの時もメーカーの材料供給が滞ることなく業績を伸ばした。昭和55年には全国に先駆け紙の容器を開発。平成2~8年紙容器でエコマークを取得したのは業界でトップ。平成10年にはタビオカデンプンを使用した土に帰る容器も日本で初めて開発。長野オリンピックに使用され、タイ工場生産。平成17年の岡山国体ではトウモロコシから得られるデンプンでPLA用品の開発に取り組むなど環境に配慮したエコ企業である。以降、現在は紙の容器に力を入れている。

平成2年には現在の本社ビルを、平成3年には栃木県に関東工場を、更に東京支店を、平成23年には矢掛第6工場を建設する。矢掛第6工場には平成24年保育所を開所し、社員の働く環境づくりにも注力。



## ■ミニ講座#06 (株)アキテックラボ(青木社長)「県立大学との商品開発」

塩ビのすだれからスタート。北米を中心に昭和40年代に全国で1億5000万才(1才=1立方尺)を輸出。(株)北蝶化成は15,000万才出荷。同業者は岡山に4社、備後に2社。

今回、岡山県立大学のSPU(スモールプロジェクトユニット)として4人の学生が9つのプロダクトを開発。7月に中間報告会を開催し、青木社長に素案をプレゼン。商品として可能性のある方向性を絞り込んでプロトタイプを制作。プロトタイプの商品とコンセプトパネルを持って学生が龍の仕事展で来訪者にプレゼン。テストマーケティングとして来訪者から幅広い消費者層の意見を集め、後期授業でブラシュアップを行い商品化に向かう。



SPU(スモールプロジェクトユニット)中間報告会風景



企業インターンシップの様子 2013

■高田織物(株)ワークショップ研修 (2013. 06. 04)



■高田織物(株)ワークショップ体験 (2013. 06. 09)



■吉備国際大学参加学生研修 (2013. 06. 08)



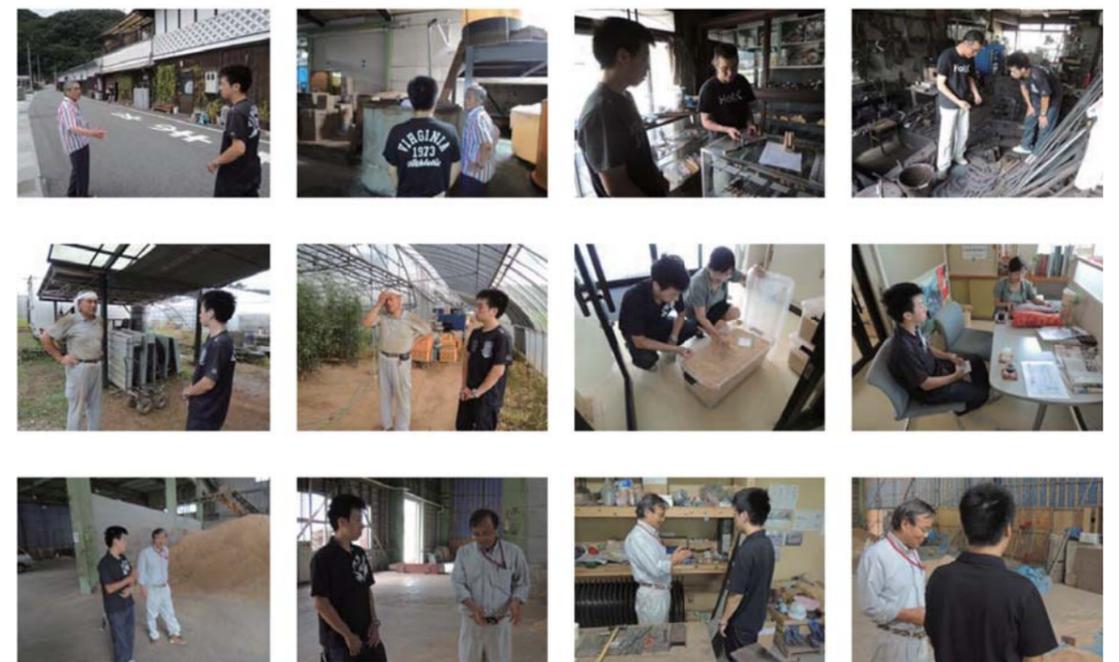
■(株)アキテックラボ&岡山県立大学SPU(2013. 07. 19)



■力毛井加工紙(株)会社訪問・工場見学 (2013. 07. 28)



■新見観光協会出展企業：会社訪問・工場見学 (2013. 08. 22 ~ 08. 23)





■倉敷木材(株)：会社訪問・「暮らしらぼ」店舗見学 (2013.08.24)



■手づくり家具のひらやま：会社訪問・店舗見学 (2013.08.26)



■今吉商店：会社訪問・工場見学 (2013.08.27)



■ヨイキゲン：会社訪問・工場見学・販売研修 (2013.08.28～08.29)



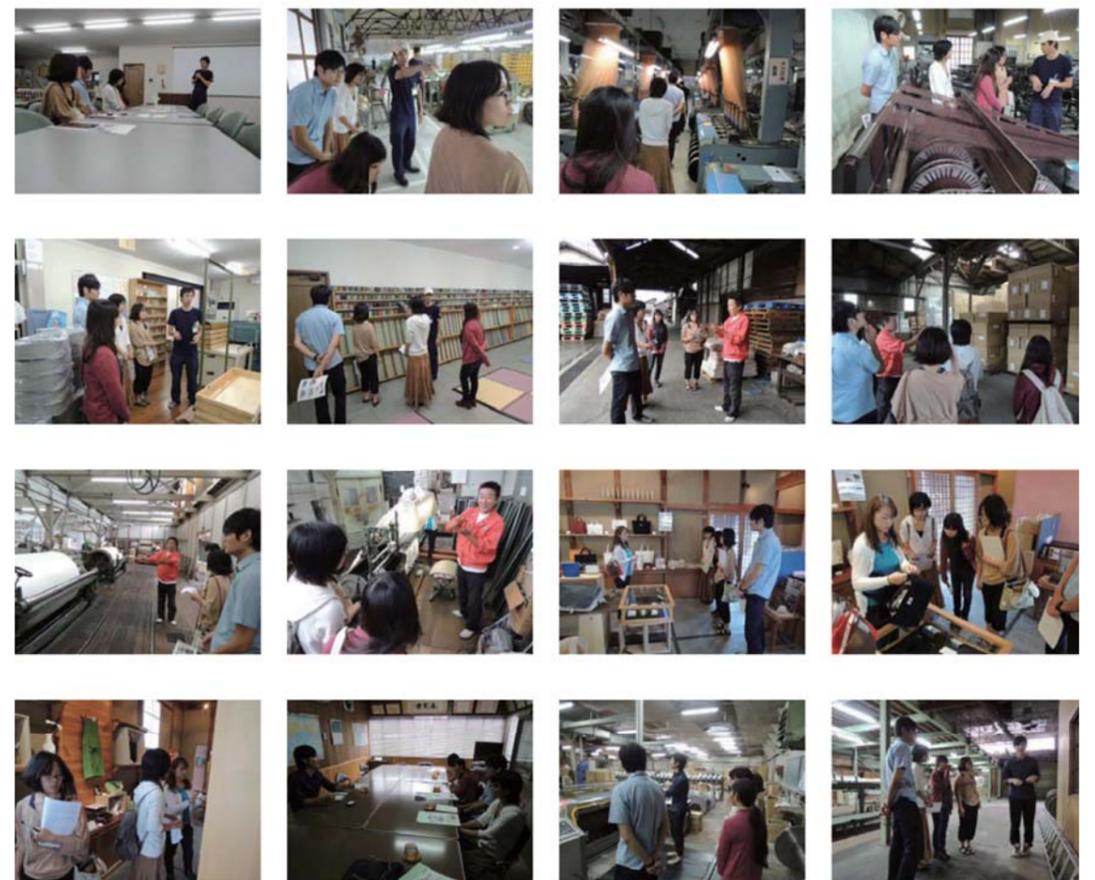
■北原産業：会社訪問・工場見学・販売研修 (2013.08.29)



■児島ジーンズストリート：桃太郎ジーンズ訪問・店舗見学・販売研修 (2013.08.31)



■高田織物(株)・(株)パイストーン・(株)タケヤリ：会社訪問・工場・店舗見学 (2013.09.04)



■旧野崎家住宅・ナイカイ塩業(株)：施設見学・会社訪問・工場見学 (2013.09.05)



■(株)丸五：会社訪問・工場見学 (2013. 09. 06)



■(有)三好染工場：会社訪問・工場見学・加工実習 (2013. 09. 06)



■新見観光協会出展企業：クニファーム会社訪問・圃場見学 (2013. 09. 08)



■大橋家住宅：会社訪問・施設見学 (2013. 09. 09)



■(有)平翠軒：会社訪問・店舗見学・販売実習 (2013. 09. 10 ~ 09. 12)



■手づくり家具のひらやま：会社訪問・店舗見学・販売補助 (2013. 09. 12)



龍の仕事展 2013 会場の様子

■第1日目【9月14日(土)】

●天候：晴れ(最高気温 31.2℃ [前日差：-0.6℃] / 湿度 56%) ●来訪者数：1,376名(昨年：968名)

●売上：156,013円(昨年：247,403円) ●交流カフェ開催：17:30 ~ 18:30(参加企業・参加スタッフの交流会)



龍の仕事展 2013 会場の様子

■第2日目【9月15日(日)】

●天候：雨/台風(最高気温26.9℃[前日差:-4.3℃]/湿度90%) ●来訪者数：768名(昨年：1,632名)

●売上：186,999円(昨年：314,067円)



■龍の仕事展実行委員会事務局からのワンポイントアドバイス

龍の仕事展の開催期間中は季節の変わり目。毎年、台風が通り過ぎ、明確に夏から秋へ季節が変わったことが判ります。会場は空調が無い為、扇風機とスポットクーラーで対応しています。自由に飲める飲み物を用意していますので水分補給は忘れずに。

龍の仕事展 2013 会場の様子

■第3日目【9月16日(月)】

●天候：晴れ(最高気温27.6℃[前日差:+0.7℃]/湿度30%) ●来訪者数：1,507名(昨年：1,133名)

●売上：338,695円(昨年：329,252円)



■龍の仕事展実行委員会事務局からのワンポイントアドバイス

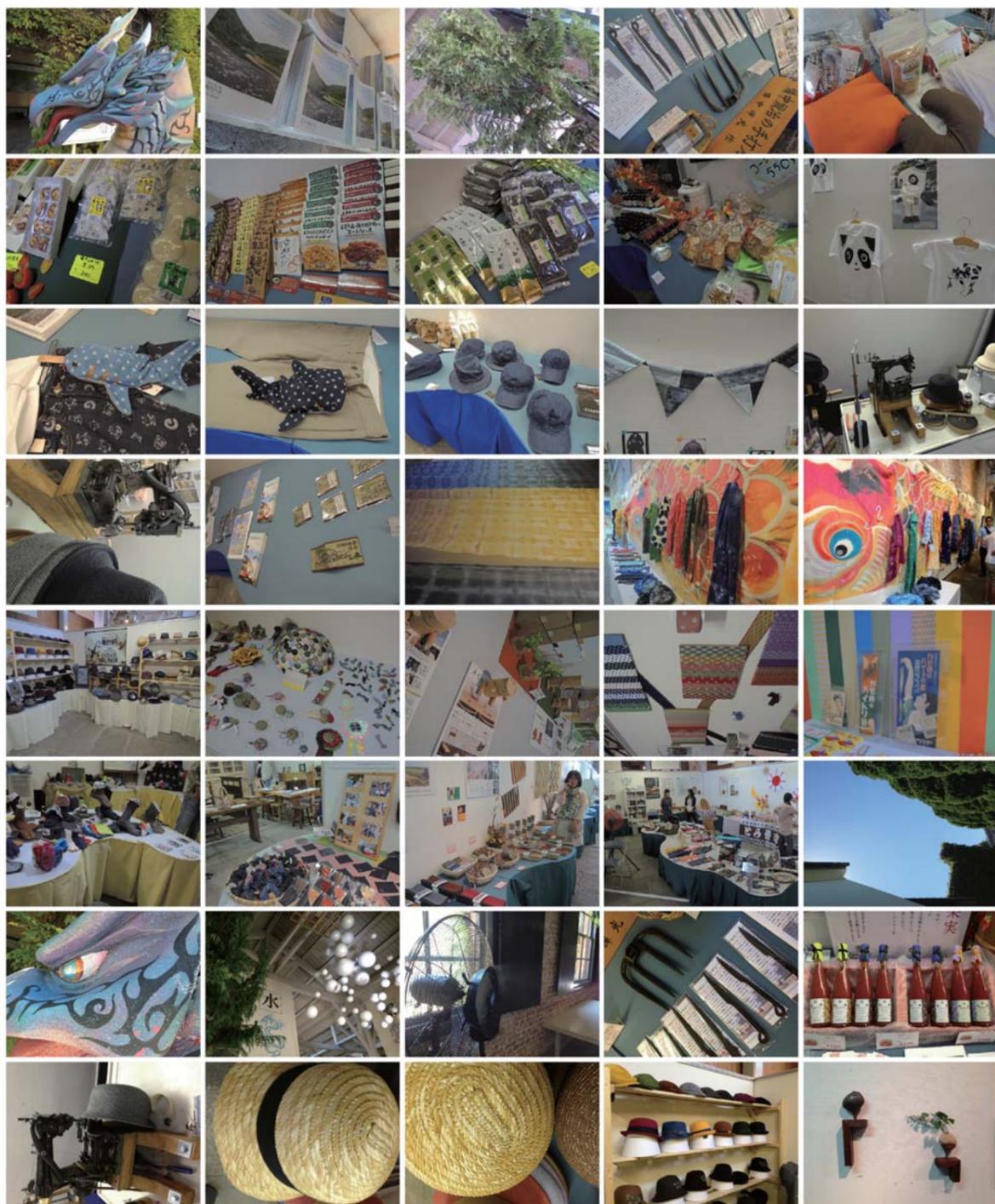
龍の仕事展では、お客様から様々な質問があります。そのためにも、担当する企業の情報を熟知しておく方がベターですが、会場の各ブースには企業文化を説明したパネルも掲示していますので、「こちらをご覧ください」と言ってパネルを紹介してくれるれば良いです。また、会場全体では「何で龍なの?」「龍って?」といった質問が多いので、「龍は高梁川という川のことです…」と説明してください。パンフレットも用意しているので、「こちらに詳しく書かれています。どうぞお持ちください」とパンフレットを勧めただけで充分です。しかし、本プログラムを活用するには、参加する皆さんが事業主旨や意義を少しでも理解し、会場に来られたお客様と会話をするのが、最大のスキルアップにつながります。お客様の中にはクレームを言われる方もおいでです。クレームこそ最大の情報です。かならず丁寧な対応を心がけるとともに、その情報を会場の全員で共有し、対応・改善することが大切です。会場には皆さんの活動を助けてくれる運営スタッフや企業スタッフ、一般のボランティア・スタッフがいます。

龍の仕事展 2013 会場の様子

■第4日目【9月17日(火)】

●天候：晴れ(最高気温28.0℃[前日差:+0.4℃]/湿度38%) ●来訪者数：462名(昨年：543名)

●売上：145,543円(昨年：164,290円)



■龍の仕事展実行委員会事務局からのワンポイントアドバイス

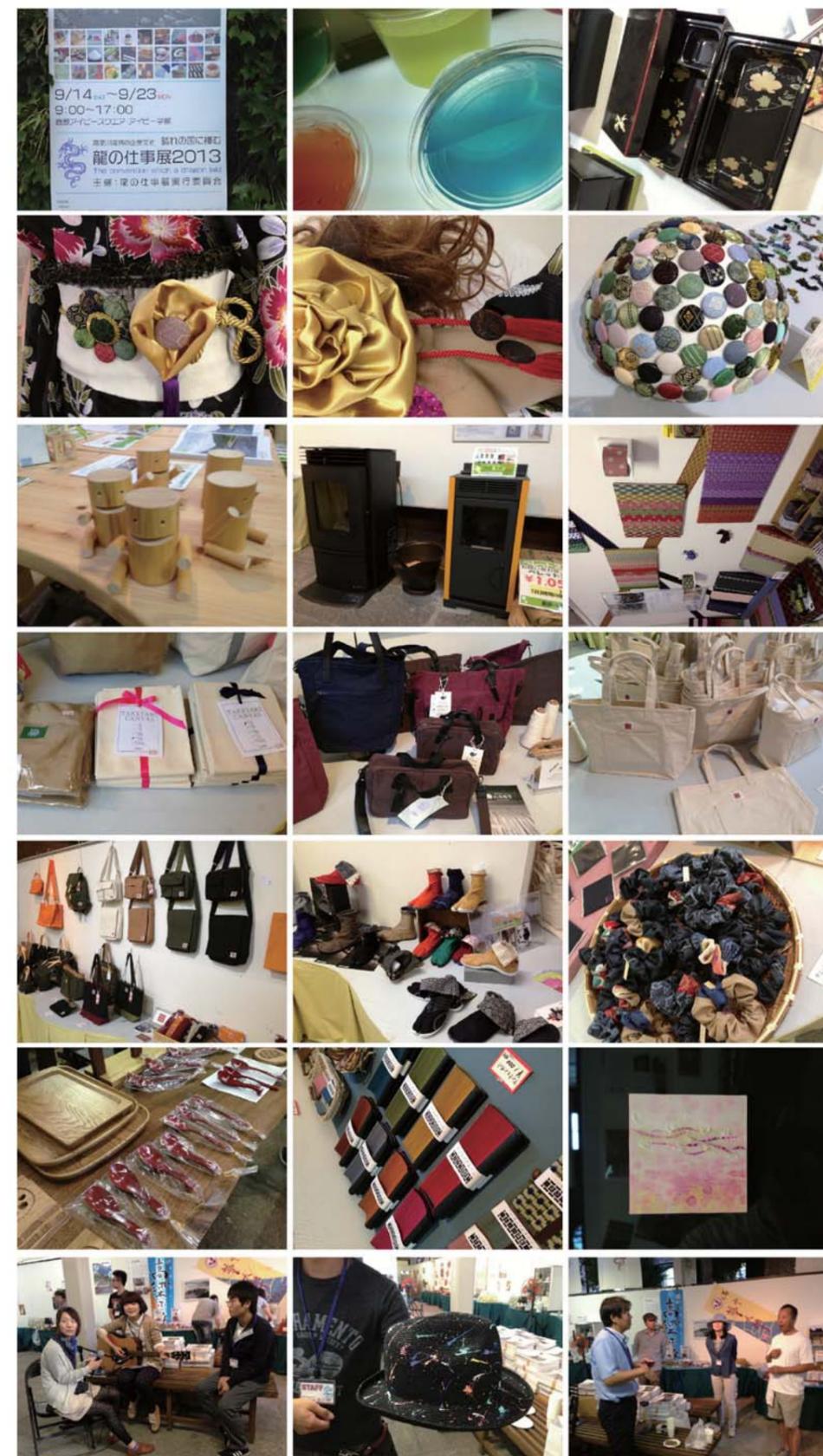
龍の仕事展では、連携・交流を楽しみましょう。自分の任されたブースはもちろん重要ですが、自分のブースの事だけやるのではなく、お客様が少ない時などは会場全体を歩き回り、周囲に、また会場全体にも目を配り、周辺のブースとの連携や、ディスプレイのコラボレーションなども提案し、改善して行きましょう。他大学の学生たち、運営スタッフや企業スタッフ、一般のボランティア・スタッフとも積極的に交流を行いましょう。迷ったり、悩んだり、わからない事はどんどん質問して、能動的に動くことが大切です。また、与えられた仕事だけでなく、周囲の人をサポートできるように心がけてみましょう。

龍の仕事展 2013 会場の様子

■第5日目【9月18日(水)】

●天候：晴れ(最高気温28.7℃[前日差:+0.7℃]/湿度38%) ●来訪者数：431名(昨年：388名)

●売上：115,348円(昨年：177,160円) ●交流カフェ開催：17:30～18:30(参加企業・参加スタッフの交流会)



龍の仕事展 2013 会場の様子

■第6日目【9月19日(木)】

●天候：晴れ(最高気温 29.0℃ [前日差: +0.3℃] / 湿度 43%) ●来訪者数：452名(昨年：405名)

●売上：136,932円(昨年：180,462円)



■龍の仕事展 2013 に参加した大学生からのメッセージ

私が担当したブースには、その日4~5名のスタッフがいたのでお客様を待ち受けた雰囲気は溢れ、逆にお客様がブースに近づきにくいことに気づきました。そこで交代で会場の外へお客様を呼び込みに行くことにしました。最初は呼び込みもどうすれば良いかわからず、一般のボランティア・スタッフの方からアドバイスをいただきました。会場で販売している具体的な商品名を出すことを思い付き、通る観光客の方に商品名を挙げて案内すると「じゃあちょっと入ってみようか」と何名かのお客様が会場に足を運んでくれました。また、大きな声で龍の仕事展に足を運んでみる価値があることを伝えると、歩くスピードを緩めて耳を傾けてくださる方が大勢いました。

接客をすることが苦手な私は最初は戸惑いながら龍の仕事展のボランティアをしていましたが、色々な方々のアドバイスをいただくことで、今回のこのボランティアを通して、「どうしたら買ってもらえるのか」について考えたところ、食品はまず試食してもらわなければ次の段階にいけないことがわかりました。次に「試食してもらおうためにはどうしたらいいか」について考えると、興味をもたせるための会話が必要なのに気づきました。しかし、接客の苦手な私はトーク力のなさを実感しました。そこから、お勧めしたい商品のどこが魅力的なのかを再確認し、何を一番に話したらいいのかを考えて接客にあたることで、商品の良さを伝えることができ、最後の日には最も成果を上げることができました。

まだまだ、至らないところは沢山ありますが、自分が少し成長したような気がして嬉しかったです。苦手なことも、恥ずかしがらずに周囲に相談し、その対処法がわかれば少しずつ克服できることにも気づけました。また私は大学で食品に関わる仕事をめざす中、試食して食品を気に入って買っていた時の喜びは、今後、食品に関わるどんな仕事に就いたとしても忘れてはいけない重要なモチベーションになるような気がしました。龍の仕事展のボランティアを経験できて本当によかったと思っています。

龍の仕事展 2013 会場の様子

■第7日目【9月20日(金)】

●天候：晴れ(最高気温 28.8℃ [前日差: -0.2℃] / 湿度 47%) ●来訪者数：360名(昨年：423名)

●売上：109,818円(昨年：165,392円)



龍の仕事展 2013 会場の様子

■第8日目【9月21日(土)】

●天候：晴れ(最高気温 29.8℃ [前日差：+1.0℃]/湿度 53%) ●来訪者数：1,215名(昨年：1,620名)

●売上：194,410円(昨年：356,585円)



龍の仕事展 2013 会場の様子

■第9日目【9月22日(日)】

●天候：晴れ(最高気温 30.3℃ [前日差：+0.5℃]/湿度 47%) ●来訪者数：1,281名(昨年：1,568名)

●売上：378,723円(昨年：471,158円)



■龍の仕事展 2013 に参加した大学生からのメッセージ

お客様に商品の良さを的確に伝えることやお客様の反応を見て行動すること、周りのスタッフと連携をよること、ペース配分を考えながら作業を行うことがとても大切だと思いました。また、お客様に見られていることを自覚し、接し方や行動に気を付けなければならぬと思いました。龍の仕事展では何より積極的な行動をとることやコミュニケーションの大切さを学びました。今後も日頃から様々な人と関わり、積極的にコミュニケーションを図っていこうと思います。

龍の仕事展 2013 会場の様子

■第10日目【9月23日(月・祝)】

●天候：晴れ(最高気温29.5℃[前日差：-0.8℃]/湿度45%) ●来訪者数：1,301名

●売上：377,286円 ●交流カフェ開催：17:30～18:30



龍の仕事展 2013 インターンシップ・プログラム

龍の仕事展 2013 では、会場での学生のボランティア活動も基本的にインターンシップとして、日々、朝に30分ミーティングを行い、各自が担当するブースの目標設定を行い、それを達成するための行動計画を皆の前で発表しました。また、夕刻には1時間ミーティングを行い、目標の達成度を報告し、次回に向けた改善策を発表するPDCAサークルの反復を行いました。また、夕刻のミーティングには大学の講師や企業の担当者が社会人の視点から様々な助言やアドバイスをを行い学生たちをフォローしました。

2日目には企業の方が大変厳しい指導をしてくれ、学生たちに緊張感が生まれました。10日間の展示会場で学生たちが日々自信に満ちた表情へと変わっていきます。



龍の仕事展 2013 打ち上げ交流会

11月に会費制で龍の仕事展の学生たちの打ち上げを行いました。龍の仕事展では様々な大学の学生が参加してくれます。大学を越えた交流が生まれるのもこのプログラムの大切な要素です。

